

2年制保育者養成校における3ポリシーの検討 ー テキストマイニングを用いたディプロマ・ポリシーの検討 ー

○ 松川 恵子

田中 洋一

香月 拓

(仁愛女子短期大学幼児教育学科)

(同 生活科学学科)

(同 幼児教育学科)

【研究の動機・目的】

動機：本学は、「保育者育成のためのキャリア・ループリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」というテーマで、2018年度私立大学研究ブランディング事業に採択された。この研究に全学的に取り組む中で、2年間の保育者養成課程で学生がどのような学習成果を身に付けることをめざすのか、その学習成果を身に付けることができるカリキュラムはどうあるべきか、そのためにはどのような学生を入学させるのか、という3ポリシーを明確にしたいと考えている。

目的：本学と同様の2年制保育者養成校のディプロマ・ポリシー（以下、DPと記す）を調査・分析し、2年間の保育者養成課程で学生たちに身に付けてほしい学習成果を明らかにすることを目的とする。

【研究の方法】

対象：189校。2019年6月22日時点で全国保育士養成協議会会員校であり、かつ幼稚園教諭免許状を取得できる2年制短期大学（2019年以降、学生募集を停止している4校を除く）203校のうち、DPが卒業要件のみで構成されている14校を除いた189校のDPを調査・分析対象とする。

方法：各短期大学の公式サイトからDPが記載されている箇所を抽出し、データベースを作成。その際、以下の条件を設けた。

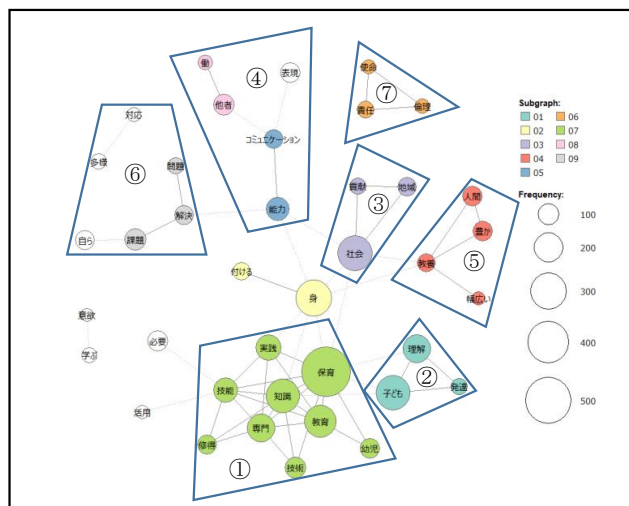
- ・2年制保育者養成課程の学習成果に項目を絞ったため、DPの前文や項目の見出し、数字などは省く。
- ・データとして抽出したのは養成課程をもつ学科・専攻・コースのDPのみとし、短期大学のDP及びカリキュラム・ポリシーに記載されている学習成果については省く。

作成したデータベースを用いてテキストマイニングによる分析を行った。なお、分析に用いたソフトウェアは、KH Coder3である。

【研究の内容】

出現数40以上の抽出語同士の共起関係を分析すると〔図1〕のようになる。出現数の多いグループから順に①から⑦まで番号をつけると、①は保育・教育の知識、方法、技術などの習得、②は子どもの理解、③は地域や社会貢献、④はコミュニケーション能力、⑤は幅広い教養と豊かな人間性、⑥は自ら課題を解決する力、⑦は保育者としての倫理観や使命感、責任感というカテゴリーに分類することができる。

本学のDP（学習成果）もほぼ上記7カテゴリーに含まれるが、「社会人としてのマナー」や「自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さ」については、〔図1〕では現れておらず、本学の特徴と言えるかもしれない。



〔図1〕出現数40以上の抽出語による共起ネットワーク（DP）

【まとめ、今後の課題】

本研究を通して、2年制保育者養成校で身につけてほしい学習成果の全体像を把握することができた。この成果を基に、今後、本学の特長を踏まえたDPについて、さらに検討していきたい。

<参考文献>

樋口耕一（2017）「軽量テキスト分析およびKH Coderの利用状況と展望」『社会学評論』68（3），334-350

<付記>

本研究は、2018年度私立大学研究ブランディング事業「保育者育成のためのキャリア・ループリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」(取組責任者：増田翼)の成果の一部である。



保育の学びがみるに
2019年度私立大学研究ブランディング事業